

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
相談支援体制の充実 相談員の質の向上	新規ケース・困難 ケースの共有 事例検討会の実施	P. 27 P. 30 P. 52 P. 53	毎月連絡会で実施 した。	連絡会の場で実施す ることで、出席する 相談支援専門員の多 様な意見を各々が参 考にすることができ 、相談支援の向上 に繋がる。(※1)	終了・ <b>継続</b> → 同じ ・ 変更	相談支援専門員としてのス キルアップは、日頃から取 り組むことが必要なため。
	基幹相談支援セン ター設立に向けて 準備	P. 29	連絡会の中で意見 交換を行った。	小牧市としての基幹 相談支援センター設 立に向けて、考え方 を確認することができ た。	終了・ <b>継続</b> → 同じ ・ 変更	市と受託予定の社協で、セ ンター業務に係る詳細につ いて協議を続ける。その過 程で相談支援事業所に意見 を求めることも有り得る。
	特定相談支援事業 所のサポート、協 働	P. 52 P. 53	毎月連絡会で実施 した。個別では実 施しなかった。	前記※1のとおり。	終了・ <b>継続</b> → 同じ ・ <b>変更</b>	次年度からは基幹相談支援 センターにこの役割を担う ことを想定している。
相談窓口の周知	関係機関での出前 講座等の実施	P. 53	9月5日に西部地区 民協にて実施し た。 その2回目(続き) の開催を10月5日 に予定している。	障がい者(児)に関 する相談機関を認識 いただくことができ た。	終了・ <b>継続</b> → 同じ ・ <b>変更</b>	西部地区民生委員・児童委 員連絡協議会のみならず、 他地区でも開催できるよう 各地区会長に相談する。
障害者自立支援協議 会の充実	各連絡会へのアド バイザー派遣	P. 53	委託相談支援事業 所連絡会で担当を 決め、各連絡会に 出席している。	連絡会で取り組む内 容について、相談員 から提案することが できている。	終了・継続 → 同じ ・ 変更	





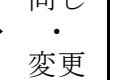

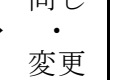
目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
精神障がい者等の地域移行への取り組み強化	保健・医療・福祉関係者との関係づくり、協議、連携強化	P. 27 P. 44	未実施（今年度中に実施できるか検討する）		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	地域移行・地域定着のケースについての把握・意見交換	P. 27 P. 44	毎月連絡会で実施することになっている。	個々の該当ケースがコロナ禍や体調不良等の理由で“移行・定着”の調整が進んでいない。 そのようなこともあり、具体的な意見交換はできていない。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
相談支援体制の充実 相談員の質の向上	ケースの共有・事例検討	p. 30	毎月連絡会で実施している	連絡会の場で実施することで、出席する相談支援専門員の多様な意見を各々が参考にすることができ、相談支援の向上につながる (※1)	終了・ <b>継続</b> → 同じ・変更	相談支援専門員としてのスキルアップは、日頃から取り組むことが必要なため。
	地域包括支援センターと連携したケースの情報交換	p. 30	当該ケースが生じた際に連絡会で実施した。	情報交換を行うことで家族問題や多問題を抱えるケースに取り組むことができている	終了・ <b>継続</b> → 同じ・変更	8050等、同一世帯に複数の要援護者がいる場合、若い世代の方に障がいがあることも少なくない。このようなケースへは地域包括支援センターとの協働が必要なため。
	多職種や他連絡会と合同事例検討会	p. 30	「居宅介護事業所と相談支援専門員との意見交換及びケース検討会」 7月19日実施	居宅介護事業所（ヘルパー）の考え方、相談支援専門員の考え方を改めて確認し、今後の支援に活かすことができる話があった	終了・ <b>継続</b> → 同じ・ <b>変更</b>	ヘルパーに限らず他の職種も交えた検討の必要性はあるが、全体の業務量との調整による。
	相談支援従事者初任者研修フォローアップ講座の実施	p. 30	今年度中に予定している		終了・継続 → 同じ・変更	
	相談支援従事者現任研修の実習受け入れ	p. 30	7月19日、7月29日、9月8日の3日間で実施済	小牧市の地域資源及び、小牧市障害者自立支援協議会について確認した	終了・ <b>継続</b> → 同じ・ <b>変更</b>	来年度は基幹相談支援センター発足のため、相談支援事業所連絡会での受け入れではない予定。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
学校との連携	特別支援学校と進路の情報共有・事例検討会	p. 42	今年度中に予定している		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
ネットワークの構築	保護者向け進路先事業所紹介	p. 40	9月28日開催 「事業所紹介とパネルディスカッション」 市内福祉サービス6事業所の個別ブースにて面談	保護者、児童合わせて20名が参加された。 保護者への呼びかけができ、繋がりができた。	終了・  →  同じ	将来の居場所を知るきっかけとなるよう継続していく
	支援の必要な児の入園に関する関係機関との意見交換	p. 40	意見交換会を12月実施予定		終了・継続→  同じ	
	こども連絡会での意見交換	p. 40	6月10日開催 ライフステージにおける切れ目のない支援についての意見交換会 参加者21名	小さい頃からのフォローが大切で保護者の相談先や、居場所についてなどを話し合うことができた	終了・  →  同じ	各関係機関と顔を合わせる場や、意見交換を行うことで、現状を知ることや課題出しができる
サービスの質の向上 子ども・子育て支援における障がい児の受け入れ推進 障がい児支援・早期療育の充実	事業所部会の発足 第一回事業所部会にて次のとおり、グループを編成し、企画・実施する。 ・事業所見学会 ・事例検討会 ・研修部会 ・ガイドブック部会 ・管理者会 ・就職フェア実行委員会	p. 41	5月23日開催 参加者23名	集まりの中で、他事業所を知ることや、横の繋がりができた。 虐待通報対応についての情報共有ができた。	終了・  →  同じ	小牧市内の子どもの事業所の集まりを継続し、サービスの質の向上に繋げていく

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	事業所見学会	p. 41	コロナ禍のため当初予定を延期し、11月に実施予定		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	事例検討会	p. 41	10月25日実施予定 事業所に対応に困っているケース、将来に繋げていける支援のための事例検討		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	管理者会	p. 41	1月実施予定 制度について等の情報を、サービス事業所の管理者同士で共有する機会としておこなう。		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	◇療育支援事業との協働 児童クラブ、放課後等デイサービス事業所とのケース検討会	p. 41	6月3日実施 参加者36名	それぞれの児童クラブの現状を知ることができた。児童クラブ・保護者・学校・児童デイ・市役所などとの連携が大事であること、連携の難しさがあることが分かった。児童デイと、児童クラブとの情報交換ができた。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	療育支援事業についての次年度以降の取組みについては次のとおり。 1) こども連絡会として企画・実施するもの 2) 相談支援連絡会として企画・実施するもの

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	保護者対象 「障がい児への関わりで感じている困難さ」の勉強会		8月22日 コロナ禍での開催であったことも影響したか、申込者がなく中止した。		終了 ・ 継続 → 同一・変更	3) 医療的ケア児等コーディネーター業務として企画・実施するもの 4) 1～3ではない企画・実施については、障害者自立支援協議会事務局として、企画者と協議のうえ、主に周知活動にのみ協力する
	◇療育支援事業への協力  保育園にて、見学及び事例検討会	p. 41	保育園での児童の様子を見学し、グループワークでどのようにサポートしていくのかを検討した。 6月22日実施 参加者23名	児童の様子を見ることや、関わり方を話し合うことができ、今後の関わり方を学ぶ機会になった	終了 ・ 継続 → 同一・変更	
	北里保育園での事例検討会		11月9日開催予定		終了 ・ 継続 → 同一・変更	
	児童発達支援センターしっぶケース検討会	p. 41	12月5日開催予定		終了 ・ 継続 → 同一・変更	
	あさひ学園保育見学及び意見交換会	p. 41	11月28日実施予定		終了 ・ 継続 → 同一・変更	
障がいに関する理解の促進	こども連絡会事業所ガイドブックの更新	p. 32	日中活動系、就労支援連絡会のガイドブック部会担当で話し合い、市民の皆様に見やすいガイドブックに仕上げていけるように検討中。	既に各連絡会担当が掲載内容を検討したことで、ガイドブックの内容を統一して作成しすることになる。	終了 ・ 継続 → 同一・変更	

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
医療的ケア児等の支援	医療的ケア児等ネットワーク部会にて意見交換会	p.44	5月31日開催 参加者 18名 9月29日開催 参加者 20名	小牧市での医療的ケア児の把握をどのようにしていくか、ニーズ調査について、支援体制について話し合うことができている	終了・継続 → 継続	このネットワーク部会で継続して協議することが有益と考えるため、現状のまま開催する予定
	医療的ケア児の個別ニーズ調査	p.44	新規医療的ケア児の相談受付、面談は随時行っている	新規の医療的ケア児への訪問調査は、保健センターを通じて行うことができている。しかし、医療機関からの退院の連絡なく在宅で暮らしている児については、把握できず面談に至らない。	終了・継続 → 継続	
	医療的ケア児等の訪問面談					
	医療的ケア児等支援体制の構築 「今年度保育園に入園する(した)医療的ケアが必要な児の情報共有」	p.44	5月31日開催 参加者 18名 9月29日開催 参加者 20名	医療的ケア児の保育園での状況を共有し、課題などを話し合うことができている	終了・継続 → 継続	一人の医療的ケア児の経過と現状を定期的に確認することで、次の医療的ケア児への支援に活かす。
医療的ケア児等コーディネーターの周知	p.44	チラシを作成した。今年度中に関係機関に配布予定。		終了・継続 → 継続		

(※)次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変える(変更)という意



目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
サービスの質の向上	・勉強会の実施  「虐待防止への取り組み方」	p.22	9月29日  虐待防止研修会に参加	参加者にとって、スタッフの日頃の利用者への接し方を振り返る機会となった。 (その他、多くの感想・意見あり) 総じて、虐待防止についての認識と理解を深める機会になった。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	虐待防止は、事業者に対して、職員への研修の実施や委員会の設置が義務化されたので、次年度以降は各事業所での取り組みに委ねる。 次年度は障害者差別解消について学ぶ機会を設ける。
	・事例検討 「親亡き後の権利擁護」 (権利擁護センター参加)	p.35 P.33	11月9日予定  親亡き後や、本人の高齢化にあたり、支援者として成年後見制度の利用等、権利擁護センターとの連携を学ぶ。		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	・事業所見学会の実施  他の事業所の支援(の仕方)を知ること で、ライフステージに必要な支援を学ぶ	p.38	11月実施予定  各連絡会順番に時期をずらして行う予定であったが、コロナ禍で延期になり、11月に各連絡会事業所一斉に行う。		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	

<p>地域生活、自立した生活の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余暇活動の場を作る</li> <li>・家族支援 本人、家族が相談や話ができる機会を設け、地域とのつながりを作る</li> </ul>	<p>p.22</p>	<p>「にじカフェ」開催  <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回7月28日実施「親子で就労体験」 参加者：7組の親子と9名</li> <li>・第4回 令和5年2月当事者向けカフェ実施予定</li> </ul> </p>	<p>7月のにじカフェでおこなった「親子就労体験」は、作業体験と事業所のスタッフに相談ができたことで子の作業能力を確認できた。また、相談もできる場だったので、サービス事業者の情報を知る機会になった。</p>	<p>終了</p> <p>・ 継続 → 同じ ・ 変更</p>	<p>第3回連絡会担当スタッフ、参加保護者から好評であったので、来年も夏休み中での開催を予定する。</p>
<p>障がいに関する理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者が通う日中活動系事業所ガイドブックの更新</li> </ul>	<p>p.32</p>	<p>令和4年度中 発行予定</p>		<p>終了</p> <p>・ 継続 → 同じ ・ 変更</p>	

(※)次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
福祉施設から一般就労への移行	・事例検討会 就労・生活支援センターようわ参加	p.30	11月30日予定 一般就労をしている方の家族、生活、諸手続きといった課題に対して、関係者の役割を確認しあう。		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
	・事業所見学会の実施 他の事業所を支援(の仕方)を知ること で、ライフステージに必要な支援を学ぶ	p.38	11月予定 各連絡会順番に時期をずらして行う予定であったが、コロナ禍で延期になり、11月に各連絡会事業所一斉に行う。		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	
社会参加の促進	・地域の人との交流、障害者の参加できる居場所の確保	P47	「にじカフェ」開催 ・第3回7月28日実施「親子で就労体験」 参加者：7組の親子と他9名  ・第4回 令和5年2月当事者向けカフェ実施予定	7月のにじカフェでおこなった「親子就労体験」は、作業体験と事業所のスタッフに相談ができたことで子の作業能力を確認できた。また、相談もできる場だったので、サービス事業者の情報を知る機会になった。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	第3回の担当スタッフ、参加された保護者から好評であったので、来年も夏休み中での開催を予定する。
事業所の理解促進、障がい者雇用の促進	・障害者雇用月間支援月間ポスターの配布	P38	9月ポスター掲示	ふれあいセンター内で掲示した。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	ふれあいセンターではない場所でも啓発する。
障害者に関する理解の促進	・障害者が働く事業所ガイドブックの更新	P38	令和4年度中に発行予定		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
福祉人材の確保	・福祉就職フェアの開催 (実行委員会設置)	p. 35	令和5年2月25日予定		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	求人サイト閲覧数は少ないことから、サイトの運用方法については協議中。
障害に関する理解の促進 地域住民の障害に関する理解促進	・西部地区民協の出前講座	p. 32	9月5日実施 民生委員・児童委員全29名参加 10月5日に続きを予定している	西部地区民協は一昨年に引き続き障害福祉サービスの説明を行った。10月5日は民生委員から相談を受けたケースの情報共有を行う。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	西部地区以外の民生委員を対象にした出前講座の開催を検討する。
虐待の防止	虐待防止研修会の実施 講師：鈴木康仁氏	p. 33	9月28日開催 サービス事業者職員29名参加	参加者にとって、スタッフの日頃の利用者への接し方を振り返る機会となった。(その他、多くの感想・意見あり) 総じて、虐待防止についての認識と理解を深める機会になった。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	講師を招いての講義と共にグループワークを行うことで、事業所での対応などを学ぶこともできる。来年度は、障害者差別解消法に関する研修を行う。
防災への取り組み	・災害時備蓄品リストの更新 ・災害時避難要援護者台帳への登録啓発	p. 50	各連絡会にて当事者への啓発を行う	事業所の災害時の備蓄品については、各事業所の任意の対応になっている。 災害時避難要援護者台帳への登録の啓発は、主に民生委員・児童委員により行われている。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	台帳登録は、民生委員・児童委員のみならず、サービス事業者及び相談支援専門員からも引き続き当事者(利用者)に周知する。

その他の事業

第3次障がい者計画等進捗状況 R4年4月～9月

(ページ数は第3次障がい者計画書中の記載箇所)

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
地域生活支援拠点が有する機能の充実	グループホーム事業所の意見交換会	p. 35	令和5年1月予定		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意